

働く仲間はたたかうN関労に結集しよう!!

# LALUZ

(ラ・ルース)

2011年1月4日(火) No. 71

N関労 西日本NTT関連労働組合

発行責任者 兼廣 英治

事務所：尼崎市武庫町 1-36-22 NTT 武庫之荘別館 3F

Tel. 090-8979-5088 Fax. 06-6436-4076

Eメール: takara-kanet@kobe.email.ne.jp

<http://www.n-kanrou.com/>

## 新年あけましておめでとうございます

辛抱せよ、辛抱せよ、辛抱を押したら世は代わる。それを  
「樂しめ」・・・坂本龍馬と同時期に土佐藩を脱藩した志士、吉  
村寅太郎の言葉である。聞かれた方もおありだろうが、少し説  
明を・・・勿論、時は幕末。

幕府は天皇から攘夷の勅書を受け、決行を奉答するが一向に  
行おうとしない。これに対し、攘夷派の長州藩は公卿の三条実  
美等と諮り、天皇自ら攘夷に出るよう仕向けた。攘夷親征の詔  
勅による大和行幸である。

吉村寅太郎は大和行幸の先鋒となるべく公卿の侍従中山忠光  
を大将に総勢38名が一足先に大和国へ向かう。いっしょか天誅  
組と称されるように。

1863年8月17日には幕府天領の大和国五条代官所を襲  
撃。ところが、京都では18日に政変が起こり、大和行幸は中  
止。京の攘夷派は失脚してしまう。挙兵の大義名分を失った天  
誅組は逆賊となり討伐を受ける身に。吉村はこの討伐隊との戦  
闘で負傷。縄を渡しただけの籠にゆられ、大和山中を敗走する  
ことになる。その時に籠を担ぐ人夫を励ますためにかけたのが  
冒頭の言葉である。人夫ではなく、自分への励ましだろうか。

辛抱を押したら世は代わる」・徳川幕府が2世紀以上も続  
く中、世が代わることなど誰も夢想だにできなかったことだ。

また「それを樂しめ」とは封建制度の下で自身の考えなど持  
つことができなかつた時代にあつて、自分の頭で考え、行動で  
きることの喜びだろうか。

天誅組の変から既に1世紀半後の現在、多くの勤労者が非正  
規雇用、低賃金に喘いでいる。国は法人税減税を決めた。税収  
入の穴埋めを庶民に課すことが見て取れる。こんな世の中を変  
えて行きたい。労苦を辛抱し、楽しさに変えながら・・・。

執行委員長 兼廣 英治

## 要請に見られる

### 会社のおごり

去る10月19日、個人所有端末自主点検について団体交渉を行った。以下は交渉を要約したもののだが、報告が遅くなったことをお詫び申し上げたい。

本来、情報漏洩を無くすためには、その原因についても明らかにし、事例を全社員が共有することにより、意識を高めていく努力も必要ではないだろうか。

今回の交渉ではハイホン兵庫の漏洩問題についても取り上げたが、漏洩の背景や経緯については口を閉ざした。このような会社の隠蔽体質自体が情報漏洩を助長している一因とも言える。

また、会社の「業務にしない」には「要請すればほとんどの社員が従う」との認識が見え隠れしている。

この問題は単に情報漏洩の問題ではなく、労働条件の問題でもある。

組合) ハイホン兵庫の他社情報の漏洩事件や、NTT東日本のNTTソルコによる情報漏洩が起きている。会社は事件の発生については知らせるが、具体的な中身については一切周知しようとしな。なぜ隠すのか。ハイホン兵庫でも35万件もの情報が漏洩した。情報そのものはNTT西日本が所有するものであり、原因を把握する必要があると思うが。

会社) 情報漏洩は大変なことだ。ハイホン兵庫での漏洩問題の原因については分かっていない。

組合) 漏洩事件等について議論する委員会等があると思うがどうか。

会社) セキュリティ推進委員会で議論している。

組合) 議論の中身は。

会社) 原因と対策について議論しているが具体的な議論内容は今わからない。

組合) 過去、ウィニーでの流出があり、今までも自宅PC点検に取り組んできた。今回、個人所有端末自主点検を取組む根拠は。

会社) 入口対策として取り組むと言う事だ。

組合) 今までも点検はやってきている。現在も風呂敷残業があるから漏洩が起こるのではないのか。風呂敷残業の事例は今日でもあるのか。

会社) 会社のパソコンから書き込みできなくしたり、メールではファイルの添付を規制した。出口規制をかけているので現時点では風呂敷残業はないと考えている。今回、滋賀で起こった情報漏洩は過去のデータが外付ハードディスクに残っていた。今回はPCだけでなく、周辺機器についても点検を要請することになった。

組合) 職場でそういう説明はされていない。滋賀では外付ハードディスクから流失があった旨、説明するべきではないのか。

会社) 調査していただいた方にはわかると思うが、そうした点検項目は示している。

組合) こうした点検だけで本当に情報漏洩がなくなると思うのか。

会社) これをやったからなくなるとは思わないが、なくなる方向でそれに近づけて行きたい。

組合) NTT東日本の茨城では東N関労の組合員が期間中に取り組まなかったとして処分を受けている。処分を出すくらいだから業務扱いということだろう。また、NTT東日本では自宅から始業時から点検を始め、終了次第に会社へ出勤する対策が採られていると聞く。NTT東西で漏洩問題に対して取り組みに差があるのはおかしいことだが、組合情報なので会社で事実かどうか確認していただきたい。

会社) 調べてみる。

組合) 会社は全社員販売の売り上げやチャレンジシートの不提出については評価に関係しないとしているが、評価の中身は闇の中である。個人所有端末自主点検をやらないことにより評価に影響するのではないかと考えるのも当然であり、

## 流行の兆し！！

### NTT労組脱退

暗に強制力が働いている。仕事でやらされていると考えるのが当然であり、要請で済まされるものではない。また、弱い立場の派遣社員等にとっては契約が継続できるのかの不安もあり、実質拒否できるものではない。

会社) 各職場100%の提出となっていない。評価の対象に結び付くものでない。

組合) なぜ、業務扱いにしないのか。

会社) 現時点では業務扱いにしない方向である。

組合) ハイホン兵庫では、上長が個人所有端末の点検を拒否した社員に対して「業務扱いにするから点検をするように」との話があったと聞く。社員が「業務扱いとするなら一筆書いて欲しい」と言ったところ、話は立ち消えになった。現場では強制的に行われている。

会社) 強制だというところがあれば指導する。

組合) 元に戻るが、情報漏洩対策委員会の正確な名称と議事録は提出していただけるのか。

会社) 調べるが、個々の事情は出せない。総務省に報告しているものもあり、出せるものは出しても良い。

組合) 提出していただきたい。

会社) 了解。

組合) 自宅PC点検は今年で何回目になるのか。

会社) 平成19年から始めており、4回目となる。

組合) 会社のシステムからUSBメモリー等で情報が取り出せるのか。

会社) 取り出せない。しかし、過去の個人情報が入付記録媒体に入っている事もある。

組合) 滋賀以外でそのような事例はあるのか。

会社) グループ会社を含めたらある。

組合) 個人のPC点検によるプライバシー侵害についてはどう考えているのか。

会社) 会社がファイルの中身を見るものではなく、自らが点検するもので、プライバシー侵害には当たらない。そこは配慮している。

組合) これからも毎年行うのか。

会社) 毎年、自己申告でやってもらう。

兵庫マーケティングセンタでは50歳で満了型を選択した人たちの間でNTT労組脱退が急増している。この1年で既に6名の方が脱退した。脱退した方は他の労組からの勧誘を受けて脱退したわけではなく、自ら決断したものであり、今のところ無所属でいる。

満了型を選択したことで出世や評価などによる会社とのしがらみが薄まったことは確かだが、脱退の本音はどこにあるのだろうか。脱退した方に聞いてみた。

Aさん「元々、N労に何かを期待するものでもなかった。共済以外に役に立つわけでもないのに悪いことはする。組合費がもったいないと思った」

Bさん「マーケティングについて企業論を研究するのに、N労に入っているのは中立の立場で論文が書けないと思い脱退した。入っていても脱退してもあまり変わらないと思うが、やめて良かったと思っている」

Cさん「職場の中に50歳以上の者に対する差別がある。『50歳退職・再雇用制度』を容認したのはN労であり、そんな組合に居ること自体がおかしいと思った」

Dさん「満了型を選択し、組合本来の加入意義が無くなった。ここ数年間でマイホーム資金を貯めたいと思っている。1番に削れるのが組合費と電通共済だった」

---

脱退の理由は各自違っているようにも見られるが、根本ではNTT労組が労働組合の体をなしていないことが要因となっている。

インフルエンザの流行なら手洗いの慣行やマスクによって抑えることもできるだろうが、どうもこればかりは・・・。

# 地域の仲間からのメッセージ

## 今年もN関労に期待します

### 今あることを在るがままに

N関労の皆さん、明けましておめでとうございます。

あの政権交代から1年半。「期待から失望」との思いで新年を迎えられた方が大半だろうと思う。失望を与えたといえば労働運動のほうが遥かに先輩であり、罪深いと私は考えてしまう。

人間は「食」という行為を内蔵されて生まれてくる。食べることは奪うことであり、殺すことでもあるならば、人間の身体は暴力を初期設定されて生れ落ちてくるとも言いうる。では、そのような存在としての人間は、弱い者がさらに弱い者をたたく暴力の悪循環を断ち切るために、いかにすべきか。これは、宮澤賢治が格闘していた問いだ。

日本の労働運動の特徴である「企業内労働運動」はこの間、何と格闘してきたのだろう。大澤信亮氏は、賢治を指して、その眼差しにはありふれた現実を回転させ、真に世の中を変えるに足る力があると評した。私は、真の労働運動にこそ、その力があると信じる。そして、労働組合は「人間」と「企業」の間で格闘すべき存在なのだ。

修羅の場となりつつある職場で、今あることを在りのままに伝えることの大切さを教えてくれたのがN関労の皆さんです。

「企業内運動から地域運動に」これが労働運動再生のキーワードだ。今年がウサギ年、企業からピョニオン地域に飛び出そう。

尼崎地区労議長 酒井浩二

### N関労に期待します

大企業の大労組から自分たちの主張を信じ、新しい組合を立ち上げられ、関東の仲間と共に活動されておられる皆さん。大きな労組では、全体の事柄の中に一人ひとりの課題が埋もれてしまいがちです。皆さんはそんな中で、一人の不当配転反対の闘いで早朝ビラまきやストライキ等を組織をあげて取り組まれています。決して派手ではありませんが、地道な粘り強い闘いにいつも励まされています。

NTTの中にも非正規労働者も増えていき、個別の課題も多くなると思います。一人で悩んでいる人と寄り添い、問題を解決して行くN関労の皆さんの出番はますます増えていくことでしょう。地域の中で力を合わせて一緒に頑張りましょう。

武庫川ユニオンの活動にも理解いただき、抗議行動などにも参加いただいています事に感謝しています。これからもよろしく願いいたします。

労働組合武庫川ユニオン

執行委員長 上山史代

